

他者と協働し、豊かな言語生活を実現する国語学習

—学びを通して身に付けた言葉の力を日常生活で生かそうとする—

書くこと部 研究主題

書くことのよさを実感できる単元づくりを目指して

第5学年国語科学習指導案

単元名 生かしてほしい 私の提案 ～相手の心を動かす提案文を書こう～

学習材名（開発単元のため、学習材なし）

第1会場 品川区立大井第一小学校
日時：令和8年2月20日(金)5校時
児童：品川区立大井第一小学校 第5学年松組 32名
担任：品川区立大井第一小学校 教諭 青柳 麻彩
指導者：渋谷区立神南小学校 指導教諭 佐藤 綾花

第2会場 台東区立松葉小学校
日時：令和8年2月20日(金)5校時
児童：台東区立松葉小学校 第5学年1組 23名
担任：台東区立松葉小学校 主任教諭 野中 尚子
指導者：東京学芸大学附属小金井小学校 教諭 橋浦 彦彦

1 単元の目標

- 文の中での語句の係り方や語順、文と文との接続の関係、話や文章の構成や展開、話や文章の種類とその特徴について理解することができる。〔知識及び技能〕(1)カ
- 目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にすることができる。〔思考力、判断力、表現力等〕B(1)ア
- 言葉がもつよさを認識するとともに、進んで読書をし、国語の大切さを自覚して想いや考えを伝え合おうとする。〔学びに向かう力、人間性等〕

2 単元の評価規準

ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
①文の中での語句の係り方や語順、文と文との接続の関係、話や文章の構成や展開、話や文章の種類とその特徴について理解している。((1)カ)	①「書くこと」において、目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にしている。(B(1)ア)	①自分の考えが伝わるように、粘り強く文章全体の構成を考えたり、書き表し方を工夫したりして、学習の見通しをもって提案する文章を書こうとしている。

3 単元構想

(1) 児童について（児童観）

・ 第1会場

本学級の児童は、11月の書くことの単元において、自然環境を守るためにどのような取組が必要かを考え、資料をもとに考えたことを伝える文章を書く学習をした。自分の考えに合った資料を選び、資料の説明をする段落、自分の考えを書く段落に分けて、構成を意識して文章を書くことができた。ほとんどの児童が時間の見通しをもち、文書作成ソフトを効果的に活用して決められた時間内に書き上げられていた。本学級では、係活動として遊び係やイラスト係など、自分で決めた係の活動に意欲的に取り組んでいる児童が多い。遊び係の児童はクラス遊びで行う遊びの計画を立て、内容を簡単にまとめて自ら担任の先生に提案することもあった。自分の想いや考えを他者に提案した経験があり、提案することについて前向きに捉えている児童が多い。

・第2会場

本学級の児童は、11月の書くことの単元において、自然環境を守るためにどのような取組が必要かを考え、資料をもとに考えたことを伝える文章を書く学習をした。文書作成ソフトを用いて、資料を使いながら考えを述べる文章を書いたり、読み合ったりする経験をしている。自分の考えと資料がつながるように注意することを学び、実際に書くことができた。ほとんどの児童が文書ソフトを効果的に活用し取り組むことができる。学級会や委員会活動などで提案することについては、当初は経験がなく遠慮がちであったが、学級担任の働きかけにより、前向きに取り組むようになってきた。自らの提案により、実際に学級や学校を動かす経験を通して、書くことのよさを感じさせた。

そこで本単元では児童が意欲的に書くことができるよう、提案文を書く学習を行う。普段の生活で児童が「こうしたい」、「もっとこうなるといいな」と思うことの中から他者に提案したいことを決め、相手の心を動かすことを目指して書くことができるようにする。同じ委員会やクラブの人に新たな活動内容を提案したり、クラスの友達や先生にイベントを提案したりすることが予想される。他にも家族に提案したいことがある児童もいるだろう。児童が思いや考えを伝えたいと思う相手を想定し、多様な文例を用意して提示することで、書いて伝えることに対しての意欲と見通しをもてるようにする。また、実際に相手に提案文を読んでもらった後に、振り返りの時間を設定する。また、文章を書いて思いや考えを伝えることのよさを実感することができるようにするとともに、書く上で工夫したことを整理して確かめることで、今後の書く活動に生かすことができるようにする。

(2) 学習材について (学習材観)

本単元では、自分の生活を見直し、生活を豊かにしたり、より良くしたいと思ったりする事柄について提案する文章を書く。家庭生活や学校生活、地域生活において児童が「もっとこうなったらいいのに」「こんなふうになつたらいいな」と思うものを題材とする。題材によっては、提案を伝えたい相手は必然的に決まってくると考えられるため、相手は児童自身が選んでいく。

児童にとって身近で変えたいと思う題材は、以下のようなことが考えられる。

家庭生活	学校生活	地域生活
<ul style="list-style-type: none"> ・犬を飼うことの提案 ・家事の分担についての提案 ・旅行先の提案 ・季節のイベントをする提案 	<ul style="list-style-type: none"> ・委員会活動やクラブ活動で新たな取り組みをする提案 (昼の放送内容についての提案、図書室の利用者数を増やす提案など) ・学級で課題となっていることを解決するための提案 (係で～を企画したが、実現までいかなかったため、再提案するなど) ・学年行事に関する提案 	<ul style="list-style-type: none"> ・遊び場を増やす提案 ・放課後に校庭開放する提案 ・地域の活動で、今は保護者がカレーを作っているけれど、自分たちで作れるようにするという提案 ・地域の祭りで子どもが出店するという提案

上記のような例を提示し、自分の生活を見つめ直し、「もっとこうしたい」という思いを高めた。提案には「現状をもっとよくするための新たな取り組みの提案」「問題点を解決するための取組の提案」「これまでに提案したことがあるけれど、叶わなかったことについての再提案」がある。どの場合でも、現状を踏まえたうえで具体的な行動や解決策を提示する必要がある。独りよがりの考えではなく、相手にもその提案を実現することでメリットがなければ、実現は難しい。そのため、提案には具体性かつ重要性があり、また、実現するための具体的な方策についても書くことが大切である。その提案の実現可能性を高めるために、児童自らがデータや文献などの根拠を提示したいと考えた場合、その有効性を取り上げ、認めていく。

提案文を書くことによって、自身の生活や身の回りの環境を変えることができるとともに、書くことにはそういう力があることを実感させたい。そして、文章を書くことで実生活を変えたり変えるきっかけを作ることができたりすることを実感した児童は、実生活でも「また書こう」という思いをもち、実践していこうと考えられる。

(3) 単元について (単元観)

本単元では、児童の興味・関心を生かして、一人一人が自分の問題意識を基にテーマや読み手を

決める。そして、実際に読んでもらいたい相手へ提案文を届ける実の場を設定し、活用の場を設けた。「何のために提案文を書くのか」「書いた文章を誰に読んでもらいたいのか」という目的意識や相手意識が明確になることで、児童が必然性をもって提案文を書くことができるだろう。そのためには、「実現させたい」と強く思う題材が大切である。そこで、単元の導入では、児童が提案したことが発端となって周囲の状況を変えた事例を提示し、意欲を喚起する。そして、児童の身の回りから幅広く題材が選べるように、複数の文例を示す。文例を読むことで、題材を見つける視点をもつとともに、提案文のイメージを共有する。また、提案が具体的なものと具体的でないものの文例を比較検討することで、具体的な提案をすることが大切であることにも気付けるようにする。第1時と第2時の間に取材期間を設け、日常生活を見つめ直し提案したい事柄を集められるようにする。また、提案内容を明確にする中で、再度取材をしたい児童のために、第2時と第3時の間にも取材期間を設定した。

第二次からは、一人一人が学習計画に沿って取材・構成・記述・推敲を行きつ戻りつしながら学習を進めていくことが考えられる。書き進めるのに必要な全体での一斉指導の場面は事前に児童と共有しておき、その時間以外は必要に応じて交流・個別指導をしていく。学習を進める上で友達に相談しながら活動したい児童もいれば、じっくり自分と対話しながら進める児童もいる。そこで、互いの様子が見える学習環境を整え、必要な学習活動ができるようにする。

第三次は、完成した文章を読み合う。完成した文章を読み、提案に対する納得度とその理由を考え、友達の文章の良さを感想として伝える活動を設定した。そうすることで、自分の文章の良さに気付くことができるだろう。実の場では、完成した提案文を自分が決めた相手に渡す。提案として通る場合もあれば、通らない場合も考えられる。通らなかったとしても、文章を書いたことで相手が考えるきっかけとなったことを価値付け、文章のもつ力を実感できるようにしたい。

4 研究主題に迫るために

(1) 「言葉による見方・考え方」を働かせる学びをつくる。

○高学年分科会で捉える「言葉による見方・考え方を働かせている」姿について

高学年分科会で捉える「言葉による見方・考え方を働かせている」姿とは、相手意識をもち、自分がどのような面で言葉の使い方を工夫したかを確認し、自覚したり、どんな言葉の使い方をすると相手に伝わったかを認識したりする際に働くと考ええる。

例えば、自分の提案の実現に迫るために、相手を意識して自分の考えを具体的に表現する姿が見られると考える。また、提案に必要な情報を集め、分類・整理したり、提案する相手に伝えるべき情報を取捨選択したりする姿も見られると考える。

○本単元の方策・工夫

構成・記述の場面では、文例の推敲前と推敲後の文章を比較する活動を通して、言葉によって相手への伝わり方に違いがあることに気が付き、言葉の使い方を工夫しようというきっかけにすることができる。また、提案文を完成させた後、自分の言葉の使い方に注目して読み直し、言葉の使い方の工夫について認識できるような時間を設けることで、児童自身が書いた満足感を得られ、次への活動の意欲になると考える。

(2) 児童が（本単元において）身に付けたい力を意識し、自ら学びを進める。

○「身に付けたい力を意識する」「自ら学びを進める」姿について

高学年分科会が捉える「身に付けたい力を意識する」とは、既習の定着している力を確認したり、前回の学びの中で課題となった力を自覚したりする姿である。「自ら学びを進める」とは、学習をしていく中で、ゴールまでの見通しをもち、取材・構成・記述・推敲の学習過程を自らの判断で行きつ戻りつしながら、学習活動を進めていく姿である。

○本単元の方策・工夫

児童が取材・構成・記述・推敲の学習過程を自らの判断で行きつ戻りつしながら、学習を進めることができるように、学級内の進捗状況を可視化する。例えば、進捗状況を名前のマグネットで可視化し、題材や提案文の項目を座席表一覧で示す。また、教師側は、座席表型支援簿を用意し、児童に適宜声をかけることができるようにする。さらに、構成・記述に入る際など、学習過程に応じて教師側から「記述のポイント」など、参考にできる資料を提示することで、児童が自分自身の学習に対して立ち止まったり、振り返ったりすることができるような環境を整える。

(3) 学習活動（言語活動）において、自らの考えをもち、多様な考えをもつ他者と関わり協働する中で、

新たな考えをもつ。

○自らの考えをもつための活動

自らの考えをもつための活動として、身近な日常生活の中で困っていることや「～したい。」
「こうだったらいいのに。」と思うことを考え、相手意識をもって自分の伝えたいことを明確にする。最初は漠然とした提案内容であるものも、友達と交流したり、自己と対話したりする中で、より具体的で提案内容が明確になると考える。

○多様な考えを取り入れる活動

多様な考えをもつ他者と関わり協働する中で、必要に応じて、自分の提案したいことを友達に聞いてもらったり、質問してもらったりしながら情報を収集したり、構成を検討したりし、自分の伝えたいことを明確にしていく。友達と対話をする活動については、教師側がモデルを示すことで、具体的な他者との関わり方のイメージをもてるようにする。書き手が伝えたい相手を強く意識した対話を目指すことができるように教師がモデルを示すことで、考えを整理するための対話ができるようになる。対話は必ず取り入れるわけではなく、児童が必要と感じたタイミングで取り入れられるようにする。

(4)獲得した言葉の力を日常生活に活用し、言語生活を豊かにする。

日常生活の中で課題となっていることに目を向け、どうしたら相手の心が動くのかを考えて提案する文章を書く。どうしたら相手に自分の考えが伝わるかを考え、伝えたいことを明確にした提案する文章で相手に伝えることにより、自分の生活が変化していくことの満足感を味わわせたい。また、相手に対して伝えることを明確にしていく力は、提案する文章だけでなく、文章を書く時に必要な力である。書くことにおいて、目的や意図を明確にしたり、相手に応じて情報を整理・分析したりする力はとても大切である。また、その書く力が日常生活に生かされる経験を通して、書くことに対する達成感を味わってほしい。

今後の生活においても、自分の思いを伝える手段として書くことがあり、書くことによって相手に伝わることの良さや価値に気づき、書いたことが生活に生かされ、言語生活が豊かになっていくことが考えられる。

5 単元計画（全5時間）

過程(次)	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準 評価方法
○次		1 例をもとに「提案」とは何かを捉える。 2 提案したいことを思い浮かべる。 3 単元の学習活動の大まかな見通しをもつ。	○子どもの提案が受け入れられ、学校生活が改善した事例を紹介し、「自分も提案してみたい」という意欲をもてるようにする。 ○提案する相手と内容の例をいくつか示し、参考にして提案したいことを考えられるようにする。	
第一次 題材の設定・情報の収	1	1 複数の文例を読み、どのような工夫がされているか考える。 2 単元の目標を捉え、学習の見通しをもつ。 3 提案文に書く題材を決める。 4 目的や意図を確かめる。 5 目的、相手、文種	○推敲前の文例と、推敲後の文例を提示し、項目や書き表し方の工夫に気づきやすくなるようにする。 ○文例を読むことを通して、「自分が相手にしてほしいこと」ではなく、「相手にとってもよさや価値があること」を提案することを確認する。 ○文例はどのような項目で構成されているかを確認するとともに、他にもどのような項目が考えられるかについて、全体で共有することを通して、構成の見通しをもてるようにす	

集		<p>(提案文)、題材を確かめ、提案したい事に応じて取材する項目を5つ程度を計画表に書く。</p>	<p>る。</p> <p>○なぜその提案をしようと思ったのかを友達に伝える場を設定し、提案文を書く目的や意図を自覚できるようにする。</p> <p>○提案内容を具体的にするために、必要な情報を集めておくように伝える。どのような情報を集めるとよいか、見通しをもつためのワークシートを配布する。</p> <p>○目的、相手、題材の設定が難しい児童には、例や他校の児童の提案文を示す。相手が身近な人物であると取材がしやすいことを伝え、設定の手がかりとなるようにする。</p>	
	<p>【取材期間①】 第2時で取捨選択できるように期間を設け、必要な項目を各自で決めて取材する。 文書作成ソフトのテキストボックスに入力し、取捨選択、入れ替えを容易にする。 本やインターネットは、出典を明示する。提案の目的・意義は必ず書く。</p>			
第二次	2 本時	<p>1 モデルを基に本時の目標を捉え、学習の見通しをもつ。</p>	<p>○集めた材料の見直し方や、取り入れたい材料を決めるときの見点を捉えることができるよう、教師が本時の学習活動を実演してみせる。</p> <p>○提案しようと思った理由や、提案を通して実現したい状況を想起し、それらに応じた情報を選ぶよう指導する。</p> <p>○一人一人の題材、目的や意図を一覧にして掲示し、交流したい友達を児童自ら判断して交流できるようにする。</p> <p>○友達との交流を望んでいない児童は、個人で情報を決める時間とする。</p> <p>○友達との交流の仕方のモデルを示し、考えを整理することにつながる交流となるようにする。</p>	<p>【思考・判断・表現①】 <u>ワークシート</u>・ <u>観察</u> ・日常生活を見つめ直して集めた材料の中から、材料を分類・整理することを通して、自分の伝えたいことを明確にしようとしているかの確認</p>
		<p>2 集めてきた材料を見直し、提案文に取り入れたい情報を決める。</p> <p>3 提案したいことと、提案文に取り入れたい材料について友達に話し、考えを整理する。</p> <p>4 本時の学習を振り返り、提案したいことをまとめる。</p>		
<p>【取材期間②】 必要に応じて、提案文に書く項目について追加取材する。</p>				
形成・記述・推敲	3 4	<p>1 モデルを基に本時の目標を捉え、学習の見通しをもつ。</p>	<p>○目的と提案が不明瞭なものがあれば、個別指導しておく。</p> <p>○提案に物が必要な場合は用意しておく。</p> <p>○取材、構成、記述の進捗状況を、名前のマグネットで可視化する。</p> <p>○必要に応じて対話を通して自分の提案したいことを聞いてもらったり、質問してもらったりしながら書けるよう題材や提案文の項目を座席表一覧で示す。</p> <p>○必要に応じて、端末で友達のメモを</p>	<p>【知識・技能①】 <u>ワークシート</u> ・文中での語句の係り方や語順、文と文との接続の関係、話や文章の構成や展開、話や文章の種類とその特徴について理解しているかの確認</p>
		<p>2 提案文のそれぞれの段落でどのようなことを書くとよいか、段落ごとの項目や簡単な内容を考える。</p> <p>3 各段落の内容を記述する。</p>		

	<p>4 目的や意図と照らし合わせて文章全体を読み直し、文章を整える。</p> <p>5 学習を振り返り、構成や書き表し方で工夫したことをまとめる。</p>	<p>参照し、題材と提案文の項目、内容について、提案に適したものかを話し合う。</p> <p>○構成を考えるときのポイントを捉えることができるよう、教師が本時の学習活動を実演してみせる。</p> <p>○記述の際のポイントをまとめた資料を用意しておき、必要に応じて参考にして記述できるようにする。</p> <p>○必要に応じて友達と読み合い、自分の目的や意図に応じた構成や書き表し方になっているか、確かめやすくなるようにする。友達と交流できるスペースを用意するとともに、一人一人の題材、目的や意図の一覧を掲示しておき、交流しやすくなるようにする。</p>	<p>〔主体的に学習に取り組む態度①〕 ワークシート・<u>観察</u></p> <p>・自分の考えが伝わるように、粘り強く文章全体の構成を考えたり、書き表し方を工夫したりして、学習の見通しをもって提案する文章を書こうとしているかの確認</p>
<p>【書いた提案文に対して、児童が設定した相手から反応を得る期間】 児童の提案文とともに、教師が作成した依頼文（読んだうえで、短くてもよいので返事や感想を書いてもらうことを依頼する内容の文）を併せて相手に渡すようにする。</p>			
<p>第三次共有</p>	<p>5</p> <p>1 アンケートを通して、提案文を書く上で工夫したことを振り返る。</p> <p>2 友達と文章を読み合い、目的や意図に応じた提案文になっているか、感想を伝え合う。</p> <p>3 自分の文章のよいところを確かめる。</p> <p>4 書くことのよさや意義、これから生かしていきたいことについて考える。</p>	<p>○項目ごとに複数の例を示し、その中から当てはまるものを選択して答えるアンケートを通して、全員の児童が「自分はこういうところが工夫できたんだ」と実感しやすくなるようにする。</p> <p>○アンケートを通して実感した自分の工夫を友達に伝えた上で読んでもらい、まずはその点について感想をもらえるようにする。</p> <p>○通らなかった提案文も、相手が考える契機となったことを価値付ける。どう書けば実現可能性が高まったのかを考える。</p> <p>○具体的によさを振り返るだけでなく、抽象度を上げて振り返ることができるよう、振り返りの視点を示す。そうすることで、これから文章を書くときに本単元で工夫できたことを生かそうとしたり、何かを提案するときには提案文を書こうと思ったりすることができるようにする。</p>	
<p>実の場</p>	<p>・相手の反応に応じて提案文を修正し、再提案する。 ・新たに提案したいことが見つかった際に、提案文を書いて提案する。 ・本単元で自分や友達が工夫したことを生かして、文章を書く。</p>		

6 本時の学習（2/5）

(1) 本時のねらい

集めた材料を、目的や意図、相手に応じて、提案の理由、事例として適切なものを選んだり、優先順位を考えたりして並べ、伝えたいことを明確にすることができる。

(2) 本時の展開

学 習 活 動	指導上の留意点	評価規準 評価方法
<p>1 モデルを基に本時の目標を捉え、学習の見通しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・なるほど、相手からの反論を予想して、具体的な情報を取り入れるとよいのだな。 ・優先順位を考えるとときは、相手がどう思うかを想像しながら考えるとよいのだな。 <p>2 集めてきた材料を見直し、提案文に取り入れたい情報を決める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・インタビューしたことは入れた方がよいか。でも「具体的な提案」と内容が重なっているのだよな…。 <p>3 提案したいことと、提案文に取り入れたい材料について友達に話し、考えを整理する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・私はインタビューもして情報を集めたのだけど、これは「具体的な提案」のところに書いてあることで伝わるから、わざわざ書かなくてもいいかなと思ったんだよね。この部分とこの部分が重なっているのだけど… ・予想される反論は、クラスの友達に聞いてみたんだ。だからこれは 	<ul style="list-style-type: none"> ○児童が取材してきた文書ファイルに、具体化する必要のある提案や取材の必要な項目の助言を書いておく。 ○座席表に、各自の目的・相手・題材（色別）をまとめ、必要に応じて対話する際に役立てる。 ○提案に物が必要な場合は用意しておくよう指導する。 ○集めた材料の見直し方や、取り入れたい材料を決めるときの観点を捉えることができるよう、教師が本時の学習活動を実演してみせる。 ○提案しようと思った理由や、提案を通して実現したい状況を想起し、それらに応じた情報を選ぶよう指導する。 ○文書作成ソフトのテキストボックスに入力した情報から、必要な情報を選択したり順序立てたりする。 ○取材と構成を必要に応じて行き来する。書く項目が変わり情報が不足した場合は、追加取材する。情報が集まったらテキストボックスを入れ替え、構成を検討する。 ○一人一人の題材、相手や目的、意図を一覧にして掲示し、交流したい友達を児童自ら判断して交流できるようにする。 ○友達との交流を望んでいない児童は、個人で情報を決める時間とする。 ○友達との交流の仕方のモデルを示し、考えを整理することにつながる交流となるようにする。 ○もらった質問と自分の返答は、文書作成ソフトのテキストボックスに書き足す。 ○具体的な提案にするために、必要に応じて、友達とも提案と項目を確かめて追加取材したり、構成を検討したりする。 ○座席表型支援簿をもとに、提案内容の具体性や内 	<p>〔思考・判断・表現〕 ワークシート・観察</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日常生活を見つめ直して集めた材料の中から、材料を分類・整理することを通して、自分の伝えたいことを明確にしようとしているかの確認 <p>〔言葉による見方・考え方を働かせている児童の姿〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・提案文を読んでもらう相手の反応を予想しながら、この情報で提案したい内容が明確に伝わるかどうかを考え、提案文に必要な情報を選択している。

入れた方が、他のクラスの友達も説得しやすいかなと思って、2つとも入れようと思ってるんだ。

容の重なり等について、個別に助言する。

4 伝えたいことが明確に（具体的な提案に）なったかを振り返る。

- ・「予想される反論の解決策」を考えていたら、「具体的な提案」が詳しくなってよかったな。
- ・全部の情報を入れたいけど、相手のことを考えて、重なっているところはいらなかったことが分かった。

○必要に応じて取材や構成の検討をして、伝えたいことが明確に（具体的な提案に）なったかを振り返る。

○次時までさらに取材が必要な場合は、いつまでにどのようなことをどのように調べていくか、見通しがもてるよう計画表に書き足す。

7 資料

取材用のテキストボックス

